

多機能日本語処理ライブラリ（ことばの工具箱）

# Ko-BaKo/J

コマンド型ツール 使用説明書 第1版 2021.03

株式会社 日本システムアプリケーション  
言語グループ

Copyright (C)JAPAN SYSTEM APPLICATION CO., LTD. 2004-2005

株式会社システムアプリケーションの許可なく複製、改変などを行うことはできません。

無断転載を禁じます。

本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

本書および本書に記載された製品の使用によって発生した損害、およびその回復に要する費用について、当社は一切の責任を負いません。

\*Microsoft, Windows, Windows10,, Windows2000, WindowsXP, Microsoft Visual C++ .NET, Microsoft .NET は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

\*その他の社名および商品名は各社の商標または登録商標です



はじめに .....	4
本ツールの特徴 .....	5
1. インストール .....	6
1.1 解凍場所の作成 .....	6
1.2 Ko-BaKo/J の解凍 .....	6
1.3 動作環境の設定 .....	7
2. 日本語文解析ツール 利用説明 .....	8
2.1 ユーザ辞書設定ファイル .....	8
2.2 原文ファイル .....	8
2.3 解析結果ファイル .....	9
4. 解析コマンド .....	17
4.1 解析コマンド .....	17
4.2 実行方法 .....	17
5. 補足 (ユーザ辞書の構築から解析コマンドの起動まで) .....	20
5.1 ユーザ辞書の記述 .....	20
5.1 ユーザ辞書の構築と解析コマンドの引数での指定まで .....	21

## はじめに

本説明書では、MS コマンドプロンプトから Ko-BaKo/J をコマンドでの利用方法を説明します。

Ko-BaKo/J のインストールが行われているものとして説明いたします。

## 本ツールの特徴

本ツールは MS コマンドプロンプトで起動制御する日本語解析ツールで、入力テキストファイルと解析結果ファイルの指定、ユーザ辞書の指定を引数で指定します。

コマンドの起動方法やユーザ辞書の指定方法を説明します。尚、ダイアログベースのツールなどの説明書とダブって書かれている部分があります。

## 1. インストール

本製品はCDに圧縮して格納されております。まずは Windows マシンの任意の場所に解凍する必要があります。

以下、C:\¥J\_Tools に解凍するものとして、ご説明いたします。C:\¥J\_Tools という部分をインストールマシンの解凍する場所に置き換えてお読みください。

### 1.1 解凍場所の作成

解凍場所に C:\¥J\_Tools というフォルダーを作成します。Ko-Bako/J は解凍すると数百 M ありますから、そのサイズの領域があるディスクを指定してください。C のディスクでなくても構いません。

### 1.2 Ko-BaKo/J の解凍

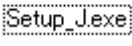
お使いの解凍ツールで、1. 1 で作成した解凍先を指定して CD 内の KoBaKo\_J.zip ファイルを解凍してください。先の C:\¥J\_Tools を解凍先に指定すると、C:\¥J\_Tools¥KoBaKo\_J というフォルダーが作成され、そのフォルダーの中には、以下の構成でシステムが置かれます。

フォルダー名	内容	説明
EXE	各種ツール	辞書メンテナンスツールや実行ファイルが格納されています。
JEDIC	解析知識	解析用辞書と解析知識が格納されています。
DOC	各種書類	本説明書など

\* 参考：システム構築環境： Microsoft Visual C++ .NET  
Microsoft .NET Framework 1.0 Version 1.0

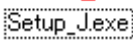
### 1.3 動作環境の設定



既に  による動作環境の設定が済んでいれば、この操作は不要です。

EXE フォルダに格納してある各種ツールやライブラリを使用する上で必要となる環境を設定します。



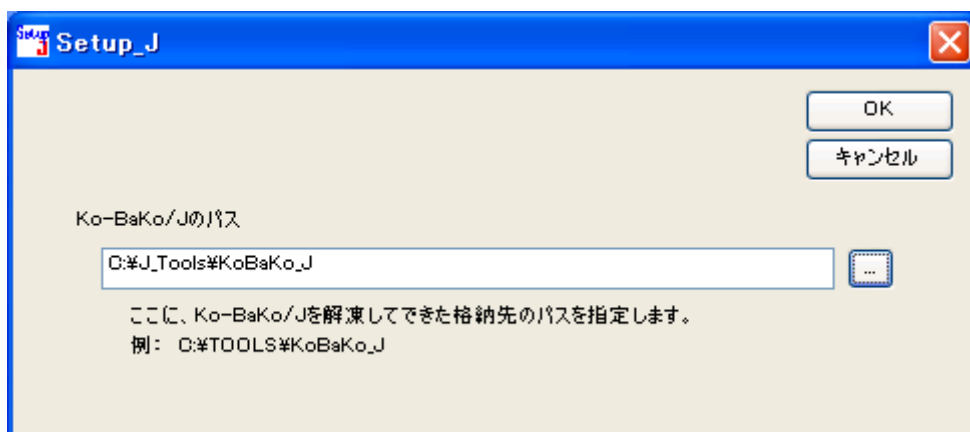
EXE フォルダに  というファイルがあります。

この Setup\_J.exe をダブルクリックして起動してください。

この処理によってインストール先の確認が行われます。

C:\¥J\_Tools にインストールしていれば、ダイアログ内のテキストボックスに

C:\¥J\_Tools¥KoBaKo\_J と表示されるはずですが、



ここで指定したフォルダには、1. 2で示した表の JEDIC など解析に必要なフォルダが置かれているはずですが、これを確認して「OK」ボタンを押してください。

以上の操作で、各種ライブラリ、ツールが使用できるようになります。



## 2. 日本語文解析ツール 利用説明

解析コマンドに対して引数で使用するファイルについて説明します。

### 2.1 ユーザ辞書設定ファイル

ユーザ辞書内に利用者独自の辞書を登録し、そのユーザ辞書を用いて解析することによって、解析結果に利用者が設定したフィーチャーを付与することができます。この効果を得るために、解析ツールを利用する際にユーザ辞書を指定する必要があります。

解析ツールに対しユーザ辞書を指定するのが、この「ユーザ辞書設定ファイル」になります。

そのユーザ辞書設定ファイルの記述形式は以下のようになっています。

```
+-----  
| [KOBako/J]  
| DOC1=c:¥KoBaKo_J¥UserDic1  
| DOC2=  
| DOC3=  
| DOC4=  
| DOC5=
```

1行目は、[KOBako/J] に固定です。

2行目以降は、DICn=\*\*\*\*\* (n:1~5)として右辺にパス付きの辞書ファイル名を指定します。nの値が小さいものが優先されます。

ユーザ辞書は5ファイルまで指定でき、優先順位の順にユーザ辞書を記述したファイル名を指定します。

注：解析に適さないと判断された場合は優先されません。

※ユーザ辞書は以下のツールで作成することができます。

- \* 「辞書エディタ（対話型）」
- \* 「辞書内容更新ツール（一括処理、バッチ型）」

### 2.2 原文ファイル

原文ファイルは、対象文が1行（1文1行）の形式で、文字コードはSJISコードです。

## 2.3 解析結果ファイル

解析結果ファイルは、形態素情報と構文ノード情報からなります。

### \*形態素情報

形態素情報は、タグで括られた形式で得られ、各形態素の持つ細かな情報は、そのタグ内の属性によって示されます。

- ・ひとつの形態素情報は、morph タグで括られ、その内部には sub\_m タグによって詳細な情報が記述されています。
- ・<morph>タグには、以下の属性名が存在します。

属性名	意味
id	形態素 ID
hdwd	形態素の表記文字列
bspl	該当形態素の原形文字列
pos	品詞
spos	細品詞
year	該当形態素の西暦の値
month	該当形態素の月
day	該当形態素の日
week	該当形態素の曜日
hour	該当形態素の時
minute	該当形態素の分
second	該当形態素の秒

注：本システムでは時刻を表現する文字列部分を形態素解析結果ではひとつにまとめています。その文字列の情報を上記の表にある日時を示す属性で表現し直しています。入力文中に元号を含む文字列があった場合も、形態素情報内の該当する属性の値では西暦に直して表現されます。「添付資料4：日時部分の解析結果」に時刻表現の文字列の解析結果をまとめました。参考にしてください。

- ・<morph>タグは下位に<sub\_m>タグで括られた補助情報を持つ場合があります。
- ・<sub\_m>タグは、解析で使用された辞書単位に作成され、そのタグには以下の属性名が存在します。

id	補助形態素 ID
doc_id	辞書識別文字 B は、システムの持つ基本辞書 1, 2, …は、ユーザ辞書の ID
bspl	該当形態素の原形文字列
read	原形文字列の読み
pos	品詞
spos	細品詞
ako	意味分類（解析機構が参照する）
thisa	検索・分類用意味分類（上位、仲間）
thpof	検索・分類用（全体・部分）
thval	検索・分類用（属性）

※これらの属性は、解析時に参照された辞書に記述されているものです。これらの属性の中で、thisa, thpof, thval は解析機構では参照されることはありません。これらの属性には、解析システムの結果を利用するシステムが参照するためのものであり、解析結果を利用するシステムに適した意味分類の体系（上位・下位関係）を設定することができます。

ここでは、解析結果を利用する立場によって各用語における意味分類体系は異なるものと考えており、解析機構で参照する意味分類（AKO）とは別の意味情報のエリアを辞書内に用意しています。thisa, thpof, thval の属性の値がそのためのフィールドであり、この値を文書の分類・検索に利用することができる。

基本辞書内でも、すべての用語ではありませんが、thisa, thpof, thval に値を設定してあります。

以下に出力例を示します。

例：「上野」という語の形態素情報

```
<morph id="M002" hwd="上野" bspl="上野" pos="名詞" spos="普通名詞">
  <sub_m id="0" dic_id="B" read="うえの" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="人工的場所"
    thisa="施設, 駅" thpof="東京" thval="駅名"></sub_m>
  <sub_m id="1" dic_id="B" read="うえの" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="地域"
    thisa="地域, 場所" thpof="三重県" thval="地名"></sub_m>
  <sub_m id="2" dic_id="B" read="うえの" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="地域"
    thisa="地域, 場所" thpof="東京都" thval="地名"></sub_m>
  <sub_m id="3" dic_id="B" read="うえの" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="人工的場所"
    thisa="施設, 駅" thpof="東京都, JR東日本, 東北本線" thval="駅名"></sub_m>
  <sub_m id="4" dic_id="B" read="うえの" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="人"
```

thisa="人, 生き物" thval="名前, 姓"></sub\_m>

</morph>

例：日時を示す語の形態素情報（日付・曜日）

<morph id="M005" hdwd="昭和20年8月15日" bspl="昭和20年8月15日" pos="名詞"  
spos="普通名詞" year="1945" month="8" day="15">

<sub\_m id="7" dic\_id="B" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="時間"></sub\_m>

</morph>

<morph id="M003" hdwd="昭和20年8月15日（水曜）" bspl="昭和20年8月15日（水曜）"  
pos="名詞" spos="普通名詞" year="1945" month="8" day="15" week="Wed">

<sub\_m id="5" dic\_id="B" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="時間"></sub\_m>

</morph>

例：日時を示す語の形態素情報（時刻）

<morph id="M005" hdwd="午後2時30分" bspl="午後2時30分" pos="名詞"  
spos="普通名詞" hour="14" minute="30">

<sub\_m id="18" dic\_id="B" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="時間"></sub\_m>

</morph>

<morph id="M005" hdwd="午後2時30分15秒" bspl="午後2時30分15秒"  
pos="名詞" spos="普通名詞" hour="14" minute="30" second="15">

<sub\_m id="18" dic\_id="B" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="時間"></sub\_m>

</morph>

<morph id="M005" hdwd="2:30 PM" bspl="2:30 PM" pos="名詞"  
spos="普通名詞" hour="14" minute="30">

<sub\_m id="3" dic\_id="B" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="時間"></sub\_m>

</morph>

注：ここでは見やすくインデントしています。

・morph タグ内の情報に関する補足

id：形態素情報にユニークに付けられた番号

この値は構文解析結果のノードから形態素を指し示す際に用いられる。

pos, spos：品詞、細品詞は、下記のようになっています。

品詞	細品詞	品詞	細品詞
名詞	普通名詞	接続詞	文頭接続詞
	副詞的名詞		文中接続詞
	特殊名詞	感動詞	感動詞

	副詞的名詞		句点
代名詞	代名詞	記号	読点
数詞	基数		その他の記号
	序数	形式名詞	こと、もの
動詞	五段		の
	一段	単位	前置単位
	する		後置単位
	くる	助数詞	前置助数詞
	愛す・愛する		単位に後置
	信じる・信ずる		数、単位に後置
	熱す・熱する		助詞
判定詞	だ	助動詞	助動詞
形容詞	形容詞	接頭辞	接頭辞
サ変	動詞用法	接尾辞	接尾辞
	名詞用法	サ変語尾	する
	連続用法	形容動詞語尾	だ
形容動詞	「に」をとる		である
	「な」をとる		です
	「の」をとる	動詞語尾	使役語尾
	名詞用法		五段語尾
	連続用法		一段語尾
副詞	通常の副詞	形容詞語尾	形容詞語尾
連体詞	限定連体詞		
	形容連体詞		

・ sub\_m タグ内の情報に関する補足

id : 形態素の補助情報に付与した番号

一文中でユニークな番号になっており、構文解析結果のノードからも、この番号を使って該当形態素を示します。

thisa : 解析結果に対する検索や分類に利用するフィールド。

検索や分類に必要な語に対して、利用者独自の分類体系を設定できるフィールドで、thisaには上位語を設定します。

thpof : 該当語が何の部分かを記述できるフィールド

thval : 該当形態素の属性を記述できるフィールド

※th 類のフィールドに関して、システム内の基本辞書の中の地名や駅名、人名には値が記述されています。その他にもいくつかの分野において記述されており、これからも記述を加えたいと考えています。ですが、基本的には、利用する立場にあった用語セットに対して値を記述していただくことものとして考えています。

記述を必要とするものがありましたら、別途、ご相談させていただくことも考えております。

**\*構文ノード情報**

構文ノード情報は、タグで括られた形式で、構文ノード情報の細かな情報は、そのタグ内の属性によって示されています。

- ・ひとつの構文ノード情報は、node タグで括られている。
- ・<node>タグには、以下の属性名が存在する。

属性名	意味
id	構文ノード ID
word	構文ノードに対する原文中の表記文字列
hdwd	構文ノードの中心になる語の原型文字列
morid	構文ノードに対する形態素 ID
neg	否定表現のノードかどうか示す
ako	意味分類（解析機構が参照する）
thisa	検索・分類用意味分類（上位、仲間）
thpof	検索・分類用（全体・部分）
thval	検索・分類用（属性）
sub_mid	該当する形態素の詳細情報の ID
cm	ケースマーカー（表層）
nextnode	係り先の構文ノード ID
year	ノード内容の西暦の値
month	ノード内容の月の値
day	ノード内容の日の値
week	ノード内容の曜日の値
hour	ノード内容の時の値
minute	ノード内容の分の値
second	ノード内容の秒の値

例：「今日の天気は晴れている。」という文の場合

GetNCount() の戻り値は 3 になり、GetNode 関数の引数を 0, 1, 2 と指定することで、構文情報が得られます。以下に形態素情報とともに構文情報を示す。

### 形態素情報

```
<morph id="M002" hdwd="今日" bspl="今日" pos="名詞" spos="副詞的名詞">
  <sub_m id="0" dic_id="B" read="きょう" pos="名詞" spos="副詞的名詞"
    ako="時間" thisa="本日, 時間"></sub_m></morph>
<morph id="M003" hdwd="の" bspl="の" pos="助詞" spos="助詞"> </morph>
<morph id="M004" hdwd="天気" bspl="天気" pos="名詞" spos="普通名詞">
  <sub_m id="13" dic_id="B" read="てんき" pos="名詞" spos="普通名詞"
    ako="自然現象"></sub_m></morph>
<morph id="M005" hdwd="は" bspl="は" pos="助詞" spos="助詞"> </morph>
<morph id="M006" hdwd="晴れ" bspl="晴れる" pos="動詞" spos="一段">
  <sub_m id="15" dic_id="B" read="はれる" pos="動詞" spos="一段"
    ako="自然現象"></sub_m>
  <sub_m id="16" dic_id="B" read="はれる" pos="動詞" spos="一段"
    ako="行為" thisa="行為"></sub_m></morph>
<morph id="M007" hdwd="ている" bspl="ている" pos="助動詞" spos=""> </morph>
<morph id="M008" hdwd="。" bspl="。" pos="記号"> </morph>
```

### 構文情報

```
<node id="N002" word="今日の" hdwd="今日" morid="M002, M003" ako="時間"
  thisa="本日, 時間" sub_mid="0" cm="N0" nextnode="N004">今日の</node>
<node id="N004" word="天気は" hdwd="天気" morid="M004, M005" ako="自然現象"
  sub_mid="13" cm="GA" nextnode="N006">天気は</node>
<node id="N006" word="晴れている" hdwd="晴れ" morid="M006, M007"
  ako="自然現象, 行為" thisa="行為" sub_mid="15, 16">晴れている</node>
```

#### ・ node タグ内の情報に関する補足

- id : 構文構造のノードに付与した番号。一文中の構文情報内でユニークな番号になっています。構文構造のノード間の係り受け関係は、この ID で示すこととなります。
- morid : 該当構文ノードの構成要素となる形態素情報の ID がリストされます。
- ako : 該当構文ノードの中心語の意味分類(構文解析によって絞り込めたものをリストしています)
- thisa : 解析結果に対する検索や分類(構文解析によって絞り込めたものをリストし

ています)

thpof : 該当語が何の部分かの記述(構文解析によって絞り込めたものをリストして  
います)

thval : 該当形態素の属性(構文解析によって絞り込めたものをリストして  
います)

sub\_mid : 該当構文ノードの構成要素である形態素情報の補助情報の ID

cm : 掛かり受け関係のケース情報

通常は助詞または助詞相当語がセットされる。

例: 馬が走る: 馬 → cm="GA" → 走る

連体のような場合、動詞から体言にかかるがそのケースマークは先頭に "-"  
を付けて記述されます。

例: 走る馬: 走る → cm="φ(-GA)" → 馬

φは、用語間に助詞を含んでいなかったことを示しています。同じような例  
として以下のような場合もあります。

例: お魚くわえたどら猫: お魚 → cm="φ(WO)" → くわえた

例: お魚くわえたどら猫: くわえた → cm="φ(-GA)" → どら猫

nextnode : 係り先の構文ノード ID

先に挙げた構文情報の例では、

「今日の」は、4番の「天気は」に掛かり、

「天気は」は、6番ノードの「晴れている」に掛かることを示していま  
す。

例: 「昨日は、昼食を食べなかった」という文の場合(否定の例)

### 形態素情報

<morph id="M002" hdwd="昨日" bspl="昨日" pos="名詞" spos="副詞的名詞">

<sub\_m id="0" dic\_id="B" read="きのう" pos="名詞" spos="副詞的名詞"

ako="時間" thisa="時間"></sub\_m></morph>

<morph id="M003" hdwd="は" bspl="は" pos="助詞" spos="助詞"> </morph>

<morph id="M004" hdwd="、" bspl="、" pos="記号"> </morph>

<morph id="M005" hdwd="昼食" bspl="昼食" pos="名詞" spos="普通名詞">

<sub\_m id="3" dic\_id="B" read="ちゅうしょく" pos="名詞" spos="普通名詞"

ako="製品"></sub\_m><sub\_m id="4" dic\_id="B" read="ちゅうしょく"

pos="名詞" spos="普通名詞" ako="非物理的人工物"></sub\_m></morph>

<morph id="M006" hdwd="を" bspl="を" pos="助詞" spos="助詞"> </morph>

<morph id="M007" hdwd="食べ" bspl="食べる" pos="動詞" spos="一段">

<sub\_m id="9" dic\_id="B" read="たべる" pos="動詞" spos="一段"

ako="行為" thisa="行為"></sub\_m></morph>



<morph id="M008" hdwd="なかつ" bspl="ない" pos="助動詞" spos=""> </morph>

<morph id="M009" hdwd="た" bspl="た" pos="助動詞" spos="助動詞"> </morph>

### **構文情報**

<node id="N002" word="昨日は、" hdwd="昨日" morid="M002, M003, M004"

ako="時間" thisa="時間" sub\_mid="0" cm="HA" nextnode="N007">昨日は、

</node>

<node id="N005" word="昼食を" hdwd="昼食" morid="M005, M006"

ako="製品, 非物理的的人工物" sub\_mid="3, 4" cm="W0" nextnode="N007">

昼食を</node>

<node id="N007" word="食べなかった" hdwd="食べ" morid="M007, M008, M009"

neg="T" ako="行為" thisa="行為" sub\_mid="9">食べなかった</node>

## 4. 解析コマンド

ここでは解析コマンドの起動方法、ならびにユーザ辞書の一括作成を例に使用方法を説明します。

### 4.1 解析コマンド

EXE フォルダー内に以下のコマンドがあります。

JE\_KoBAKO\_com.exe

この実行形式のファイルが解析コマンドです。

### 4.2 実行方法

以下のように実行します。

例 1 :

➤ JE\_KoBAKO\_com.exe -sx line -D USERDIC\_FILE.ini

引数 : -sx line

1 行が 1 文として扱う指示になります。

**注 : 現版に他のオプションはない。現在はこれを必ず指定してください。**

引数 : -D ユーザ辞書設定ファイル

-D オプションによって「ユーザ辞書設定ファイル」を指定します。

注 : ユーザ辞書を必要としない場合は、不要です。

例 2 :

➤ JE\_KoBAKO\_com.exe -sx line -D USERDIC\_FILE.ini -i 原文ファイル

引数 : -i 原文ファイル

-i オプションによって「原文ファイル」を指定します。

注 : 指定しない場合は、標準入力になります。

例 3 :

➤ JE\_KoBAKO\_com.exe -sx line -D USERDIC\_FILE.ini -o 解析結果ファイル

引数 : -o 解析結果ファイル

-o オプションによって出力先「解析結果ファイル」を指定します。

注 : 指定しない場合は、標準出力になります。

```

D:¥J_Tools¥EXE>type infile2.txt
猫の手も借りたい。
子供の声に癒される。

D:¥J_Tools¥EXE>JE_KoBAKO_com.exe -sx lne -D USERDIC_LIXIL.ini -i infile2.txt -o outfile2.txt
##### STARTJ_Analysis!
### iSent1=[0]

D:¥J_Tools¥EXE>type outfile2.txt
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<janalysis>
<memo>
<date>2021/03/22 16:37:11</date>
<dict id="1">D:¥Jobs¥JSA¥KoBAKO¥SOFT¥VCNET64¥exec¥2020Test¥UDIC¥LXL_udic2020h</dict>
</memo>
<filename>infile2.txt</filename>
<doc>
</doc>
<sentence id="1">
<text>
猫の手も借りたい。
</text>
<m_info>
<morph id="M002" hwd="猫" bspl="猫" read="ねこ,びょう" pos="名詞" spos="普通名詞"><sub_m id="0"
select="T" dic_id="B" bspl="猫" read="ねこ,びょう" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="動物" thisa="
猫,動物"></sub_m><sub_m id="1" dic_id="B" bspl="猫" read="ねこ,びょう" pos="名詞" spos="普通名詞"
ako="行為" thisa="行為"></sub_m></morph>
<morph id="M003" hwd="の" bspl="の" pos="助詞" spos="助詞"><sub_m id="9" select="T" dic_id="B"
bspl="の" read="の" pos="助詞" spos="助詞"></sub_m></morph>
<morph id="M004" hwd="手" bspl="手" read="て,た,しゅ" pos="名詞" spos="普通名詞"><sub_m id="22"
select="T" dic_id="B" bspl="手" read="て,た,しゅ" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="動物の一部または
派生物" thpof="腕,動物"></sub_m><sub_m id="23" dic_id="B" bspl="手" read="て" pos="名詞" spos="普通
名詞" ako="行為の結果" thisa="方法"></sub_m><sub_m id="24" dic_id="B" bspl="手" read="て,た,しゅ"
pos="名詞" spos="普通名詞" ako="行為" thisa="行為"></sub_m><sub_m id="25" dic_id="B" bspl="手"
read="て" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="行為" thisa="行為"></sub_m></morph>
<morph id="M005" hwd="も" bspl="も" pos="助詞" spos="助詞"><sub_m id="31" dic_id="B" bspl="も"
read="も" pos="助詞" spos="助詞"></sub_m></morph>
<morph id="M006" hwd="借り" bspl="借る,借りる" read="かる" pos="動詞" spos="五段,一段"><sub_m
id="34" select="T" dic_id="B" bspl="借る" read="かる" pos="動詞" spos="五段" ako="行為" thisa="行為"
"></sub_m><sub_m id="37" dic_id="B" bspl="借りる" read="かりる" pos="動詞" spos="一段" ako="行為"
thisa="行為"></sub_m><sub_m id="38" dic_id="B" bspl="借りる" read="かりる" pos="動詞" spos="一段"
ako="状態値"></sub_m></morph>
<morph id="M007" hwd="たい" bspl="たい" pos="助動詞" spos=""><sub_m id="41" dic_id="B" bspl="たい"
read="たい" pos="助動詞" spos=""></sub_m></morph>
<morph id="M008" hwd="。" bspl="。" pos="記号"></morph>
</m_info>
<s_info>
<node id="N002" word="猫の" hwd="猫" morid="M002,M003" ako="動物,抽象的場所,時間" thisa="猫,動物"
sub_mid="0,9" cm="NO" case="POF" nextnode="N004">猫の</node>
<node id="N004" word="手も" hwd="手" morid="M004,M005" ako="動物の一部または派生物" thpof="腕,動物"
sub_mid="22" cm="WO" case="OBJ" nextnode="N006">手も</node>
<node id="N006" word="借りたい" hwd="借り" morid="M006,M007" ako="行為" thisa="行為" sub_mid="34">
借りたい</node>
</s_info>
<!--
<struct_com><br/>
→→ <br/>
| | <br/>
→→ | | <br/>
| | | <br/>
猫の 手も 借りたい <br/>
</struct_com>
-->

```

```

<struct_tree>
<node id="N006" word="借りたい">
<node id="N004" word="手も" cm="WO case="OBJ">
<node id="N002" word="猫の" cm="NO case="POF">
</node>
</node>
</node>
</struct_tree>
</sentence>
<sentence id="2">
<text>
子供の声に癒される。
</text>
<m_info>
<morph id="M002" hwd="子供" bspl="子供" read="こども" pos="名詞" spos="普通名詞"><sub_m id="0"
select="T" dic_id="B" bspl="子供" read="こども" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="人" thisa="人, 生き
物"></sub_m><sub_m id="1" dic_id="B" bspl="子供" read="こども" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="行為"
thisa="行為"></sub_m></morph>
<morph id="M003" hwd="の" bspl="の" pos="助詞" spos="助詞"><sub_m id="15" dic_id="B" bspl="の"
read="の" pos="助詞" spos="助詞"></sub_m></morph>
<morph id="M004" hwd="声" bspl="声" read="こえ" pos="名詞" spos="普通名詞"><sub_m id="28"
select="T" dic_id="B" bspl="声" read="こえ" pos="名詞" spos="普通名詞" ako="自然現象" thisa="声"
"></sub_m><sub_m id="29" select="T" dic_id="B" bspl="声" read="こえ" pos="名詞" spos="普通名詞"
ako="動物の一部または派生物" thpof="動物"></sub_m><sub_m id="30" dic_id="B" bspl="声" read="こえ"
pos="名詞" spos="普通名詞" ako="行為" thisa="行為"></sub_m></morph>
<morph id="M005" hwd="に" bspl="に" pos="助詞" spos="助詞"><sub_m id="76" dic_id="B" bspl="に"
read="に" pos="助詞" spos="助詞"></sub_m></morph>
<morph id="M006" hwd="癒さ" bspl="癒す" pos="動詞" spos="五段"><sub_m id="87" dic_id="B" bspl="癒
す" read="いやす" pos="動詞" spos="五段" ako="行為" thisa="行為"></sub_m><sub_m id="92" select="T"
dic_id="B" bspl="癒す" pos="動詞" spos="五段" ako="行為"></sub_m></morph>
<morph id="M007" hwd="れる" bspl="れる" pos="助動詞" spos=""><sub_m id="94" dic_id="B" bspl="れる"
read="れる" pos="助動詞" spos=""></sub_m></morph>
<morph id="M008" hwd="。" bspl="。" pos="記号"></morph>
</m_info>
<s_info>
<node id="N002" word="子供の" hwd="子供" morid="M002, M003" ako="人" thisa="人, 生き物" sub_mid="0"
cm="NO" case="POF" nextnode="N004">子供の</node>
<node id="N004" word="声に" hwd="声" morid="M004, M005" ako="自然現象, 動物の一部または派生物"
thisa="声" thpof="動物" sub_mid="28, 29" cm="NI" case="INS" nextnode="N006">声に</node>
<node id="N006" word="癒される" hwd="癒さ" morid="M006, M007" ako="行為" sub_mid="92">癒される
</node>
</s_info>
<!--
<struct_com><br/>
      →→ <br/>
      |   |<br/>
    →→→ |   |<br/>
    |     |   |<br/>
子供の 声に 癒される <br/>
</struct_com>
-->
</struct_tree>

```

## 5. 補足（ユーザ辞書の構築から解析コマンドの起動まで）

ここではユーザ辞書の作成手順を示します。

この手順で作成しなければならないというわけではないですが、ユーザ辞書データの管理を Excel で行い、そのデータを解析コマンドで指定するまでの手順を示します。

### 5.1 ユーザ辞書の記述

以下の形式で記述した辞書を Excel で管理することとする。

1 辞書データは 1 行に記載し、各セルは以下の構成とします。

カラムの意味は以下のように品詞（3 カラム目）によって異なります。

- 名詞

見出し	読み	名詞	意味分類	～の仲間	～の部分	～の属性値	異表記
-----	----	----	------	------	------	-------	-----

- 動詞

見出し	読み	動詞	活用型	構文形	～の仲間	～の部分	～の属性値	異表記
-----	----	----	-----	-----	------	------	-------	-----

- 形容詞

見出し	読み	形容詞		～の仲間	～の部分	～の属性値	異表記
-----	----	-----	--	------	------	-------	-----

- 形容動詞

見出し	読み	形容動詞	語尾	～の仲間	～の部分	～の属性値	異表記
-----	----	------	----	------	------	-------	-----

- 副詞

見出し	読み	副詞		～の仲間	～の部分	～の属性値	異表記
-----	----	----	--	------	------	-------	-----

- 単位

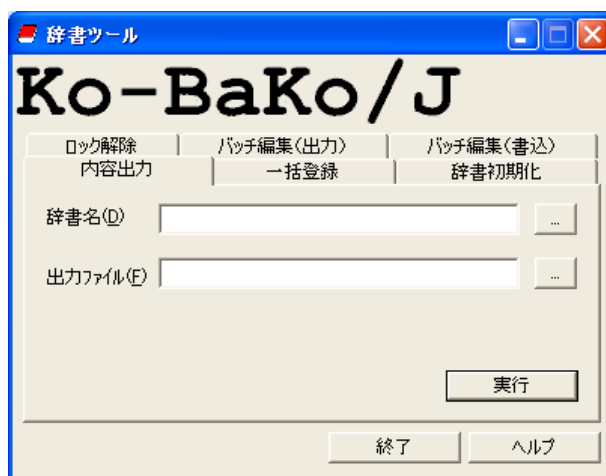
見出し	読み	単位	位置	～の仲間	～の部分	～の属性値	異表記
-----	----	----	----	------	------	-------	-----

## 5.1 ユーザ辞書の構築と解析コマンドの引数での指定まで

上記の Excel で管理されているデータを「タブ区切り（テキスト）」で出力します。  
そのテキストファイルを入力データとして、ユーザ辞書を一括登録します。

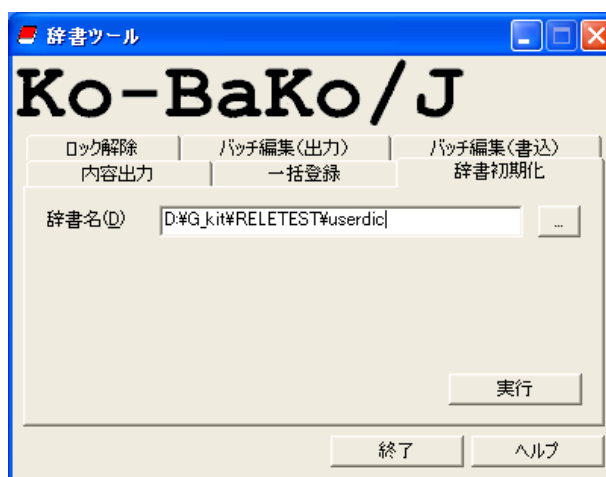


EXE フォルダに JPDtool.exe という辞書登録ツールがあります。  
この JPDtool.exe をダブルクリックして起動してください。



### (1) ユーザ辞書の初期化

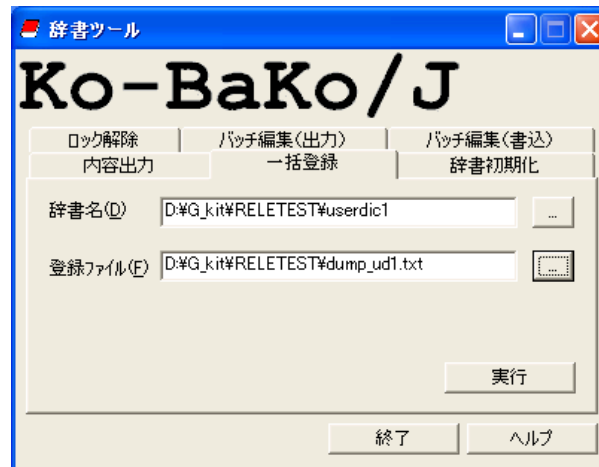
「辞書初期化」のタブを指定し、初期化するユーザ辞書を指定します。



存在しない辞書ファイル名を指定した場合は、新規に作成します。既存の辞書ファイルの場合は、初期化してよいか確認した後、内容を初期化します。

(2) 一括登録

Excel ファイルの内容をタブ区切りの形式で出力したファイルのデータを(1)で作成したユーザ辞書に登録します。



(3) 解析処理

作成されたユーザ辞書をユーザ辞書設定ファイルで指定し、解析コマンドを実行します。

本システムに関するお問い合わせに関して、

内容や使用方法などの疑問点、ならびに、ご提案など、下記までお送りくださいますようお願い致します。

株式会社 日本システムアプリケーション

言語グループ

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-55-2 鈴木ビル3F

TEL:03-5951-3961

FAX:03-5951-3966

E\_mail:sales@jsa.co.jp